

事務事業評価シート 平成 29 年度事後評価・決算

平成 31 年 2 月 21 日時点

事務事業名		コード	33000 消防施設整備事業	予算科目	会計	一般	款	9	項	1	目	1	事業種別	所管課	消防本部	担当班	警防課
基本施策		30	消防力の強化	根拠法令	消防法第20条	水道法第24条第1項								☒ 主な事業 ☒ 国土強靱化地域計画 ☒ 新市建設計画 ☐ 定住自立圏構想 ☐ 主要事業			
施策の展開		58	常備消防体制の充実	戦略事業	257	消防水利の整備											
施策の展開				戦略事業													

(1) 事務事業の概要

① 事務事業の期間		② 事務事業の内容 ※何をどのようにする事務事業なのか、市民が理解できるように記述する、行政用語は使わない	
☒ 単年度繰返		・老朽化した金網張り防火水槽の金網を、撤去要望等が無ければ新しいものに張り替える。また、既存の屋根付防火水槽の屋根の破損や、防火水槽が漏水し消防水利として水量を確保できないものを修理し、危険のない使用可能な状態にする事業。 ・防火水槽用地を借りて設置されている防火水槽が、地権者から用地返却を求められた際、撤去要望書を提出してもらい土砂等で埋め戻し現状回復を行う事業。 ・住民からの設置要望や旭市消防力整備指針の計画にあわせ毎年度耐震性貯水槽の設置を整備計画する。 ・旭市総合計画の策定もあり、市民の生命、身体及び財産の保護のため、火災等の災害に備え計画的に消火栓を設置する。また市内に設置されている消火栓が常に良好な状態で使用できるように、腐食したボルト等の交換を行い、安全な消防活動ができるように維持管理する。	
☐ 平成 年度～			
☒ 開始年度不詳			
☐ 期間限定複数年度			
平成 年度～ 平成 年度まで			
③ 事務事業開始の経緯・事務事業の現状		④ 事務事業に関する課題・環境の変化	
・住民の転落事故等防止のため始まった。 ・地権者から土地の返却を求められたことから始まった。 ・下水道整備事業開始に伴い、計画的に消火栓を設置し迅速な消火活動ができるよう各計画に組み込んで実施している。また、安全、確実な消火活動を確保するため、ボルト等が腐食した消火栓を修理する必要があったため。		・年数が経過した防火水槽の破損により、金網の張替えや屋根の改修件数が多くなっている。 ・突発的な撤去要望が多く、予算化されていない年度内の実施が難しいため、地権者の理解を得るために苦慮することが多い。 ・年数が経過した古い防火水槽は耐震性が無く漏水が多いため、防火水槽の入れ替えも検討したいが、厳しい財政状況下で、漏水箇所の目地埋めやシート張り等の一時しのぎな工事ができない。	
		⑤ 事務事業に対する住民からの意見等	
		・近年住民の防災意識が高まっているなかで、老朽化した防火水槽の改修要望が多くなっている。	

(2) コスト・特定財源の状況

① 事業費の詳細 (29年度の決算)	単位: 千円	26年度 (決算)	27年度 (決算)	28年度 (決算)	29年度 (決算)	30年度 (予算)
1. 工事請負費 (設置・改修)	5,422 有蓋化改修等8箇所	8,078	6,930	16,473	5,422	13,376
2. 工事請負費 (解体・撤去)	3,712 解体・撤去4か所	4,311	678	1,382	3,712	1,296
3. 公有財産購入費	0	0	0	1,092	0	0
4. 負担金補助及び交付金	17,420 消火栓新設3基 消火栓修繕115基	6,370	8,235	11,186	17,420	17,405
事業費計 (A)		18,759	15,843	30,133	26,554	32,077
1. 国庫支出金						
2. 都道府県支出金						
3. 地方債				9,900	0	7,500
4. その他						
5. 一般財源		18,759	15,843	20,233	26,554	24,577

前年度 増減理由	前年度と違い地方債を使用できる事業が無かった為、増額
----------	----------------------------

従事職員数	常時	2人	最大		人	×		日	=	延べ	0人	人
-------	----	----	----	--	---	---	--	---	---	----	----	---

(3) 事務事業の手段・目的と対応する指標

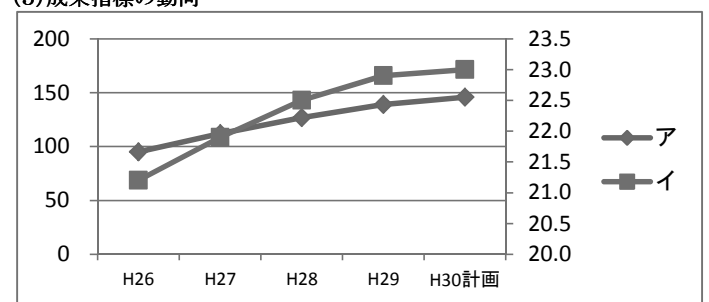
手段	① 主な活動	③ 活動指標名	単位	26年度 (実績)	27年度 (実績)	28年度 (実績)	29年度 (実績)	30年度 (計画)
A	29年度実績 (29年度に行った主な活動)	防火水槽有蓋化・修理か所数 (井戸式消火栓含む)	か所	11	15	13	8	9
	有蓋化・改修工事 8か所 防火水槽撤去 4か所	消火栓新規設置 (上段)・修繕数 (下段)	基	1 49	3 36	4 48	3 115	4 53
目的	② 対象・意図 (対象がどのような状態になるのか)	④ 成果指標名	単位	26年度 (実績)	27年度 (実績)	28年度 (実績)	29年度 (実績)	30年度 (計画)
A	対象 老朽化防火水槽 意図 消火活動に必要な消防水利を確保する。また、火災による転落事故防止を図る。	有蓋化・改修工事・撤去工事の実施か所数 (割合) (19年度～の工事件数)	か所	95	112	127	139	146
	対象 消火栓 意図 安全な消火栓を維持管理し、確実な消火活動の実施を図る。	耐震性貯水槽の設置率	%	21.2	21.9	22.5	22.9	23.0

(4) 事務事業優先度評価の結果

① 成果優先度評価結果		② コスト削減優先度評価結果		
施策貢献度	成果向上余地	コスト比率		
	かなりある	ある程度ある	ほとんどない	
大きい	①			
普通				
小さい				

評価結果	成果優先度			コスト削減優先度		
	下位 1/3	中位 1/3	上位 1/3	下位 1/3	中位 1/3	上位 1/3
①		(3)				
②						
③						
④⑤						
⑥						
⑦⑧						
⑨						

(5) 成果指標の動向



(6) 事務事業に関する評価

評価内容	① 進捗状況		☐ 完了 ☒ 順調 ☐ 概ね順調 ☐ 停滞 ☐ 実施困難												
	【コメント】 (停滞・未実施・実施困難の場合、その理由)														
	② 成果の状況	成果指標ア 成果指標イ	成果指標 のタイプ		数値増＝成果向上	☐ 向上	☒ 横ばい	☐ 低下	成果動向	比較	25年度 26年度	26年度 27年度	27年度 28年度	28年度 29年度	29年度 30計画
	【コメント】 (低下の場合、その理由)				数値増＝成果向上	☐ 向上	☒ 横ばい	☐ 低下		ア	16	17	15	12	7
									イ	1.0	0.7	0.6	0.4	0.1	
③ 今年度取組事項 (30年度に取り組む主な事項について記載)		時期	内容			今後の方向性	☐ 拡大 ☐ 縮小 ☒ 現状維持 ☐ 廃止・休止 ☐ 見直し ☐ その他()								
30年度中		耐震性防火水槽の設置及び防火水槽改修、撤去			30年度以降	防火水槽については、現状を維持しつつも新設だけではなく、既存水槽の耐震強化を進めていきたい。									